

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370900441
法人名	社会福祉法人柏寿会
事業所名	福光園 グループホーム やすらぎの家
所在地	岩手県一関市真柴字柵木立43-96 (電話) 0191-23-5435

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団 評価公表課		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	1月7日

## 【情報提供票より】(19年10月15日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤	人, 常勤換算 8.2 人

### (2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階 ~ 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4)利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.9歳	最低	72歳	最高	91歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	一関病院、秋保クリニック、山本歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

一関市街地の南方向の郊外、国道42号線沿いの静かな環境の中に立地する。地域との連携に力を注いでいることが、色々な取り組み例からうかがえる。入浴時の時間帯設定の15時以降希望によって自由に入浴できること、福光園をはじめ、法人グループ内の他事業所と連携の中でサービスを提供できること、マイクロバスを自由に稼働できるので全員で外出する場合即決でもできること、楽しみと趣味のためカラオケルームを設けたこと、職員は礼儀をわきまえていることが特色である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価及び自己評価の改善点を踏まえながら前向きに取り組んでおり、着実に改善の方向にある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組むことで、評価の意義と評価によって出てきた改善点や努力を要する点などを共通理解すると共に、みんなで取り組んで行き、サービスの質の向上に努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議ではホーム側から状況報告をし、それに対する質疑と運営にかかわる諸問題に対する協議をしている。その中で出てきた意見を具体的に反映する方向で取り組んでいる。例えば地域自主防災組織への加入準備などは会議の意見反映である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見・苦情についての窓口を設置するとか、来所の折、運営推進会議等において求めているが、現時点ではあまり多くない。しかし、一人の利用者の家族の意見に沿って、その利用者の居室の窓開閉について工夫した例がある。意見は可能な限り運営に反映するよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人たちはよく訪ねてくれる。管理者が地元の住人であり、地域組織などと意識的に連携するよう取り組んでいる。避難訓練に地域が協力するとか、地域自主防災組織への加入準備とか、運動会、敬老会、地域清掃への参加など具体的な例である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会と共存、連携を強調したグループホームの理念を全職員の思いや、意見により作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議などにより確認しあうと共に、日常の中で職員同士で具体的支援を話し合う。内部研修では、福光園園長から「理念と社会、法人のあり方」と題して講話をいただいた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域行事に参加している。また、地域の各種団体の代表者の会議にも参加してグループホームの状況を報告し、理解と協力を願っている。避難訓練には地域住民の協力を得ている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己・外部評価について改善点を踏まえながら、今年も評価の意義を理解し、サービスの質の向上のため、時間を取りながらみんなで評価に取り組んできた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区長から災害時の避難場所についての意見があり、ホームとしては、近く設立予定の地域自主防災組織に加入することで対応できるようにする。これは、運営推進会議で防災関係の報告に対する話し合いから出たことである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	文書等は市の担当課に出向いて、直接渡すようにしている。特に運営推進会議の案内はそのようにしており、直接の対話ができることを目指している。出向くことでの情報収集も得られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「やすらぎの家だより」(広報)を利用者の各家族に送ってホームの様子を知らせている。たよりの一隅に部屋担当者からの一言欄があり、担当者のコメントを記入することになっている。金銭出納は、帳簿に適切に行い、家族に知らせている。	○	「やすらぎの家だより」はグループホーム全体にかかわる内容が主たることなので、個々の利用者に関する部屋担当者からの欄のスペースをより広くとり、近況を詳しく知らせるように工夫することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱、相談・苦情受付窓口、運営推進会議、家族の来訪時など、可能な限りの機会を捉えて意見等を求めている。外出指向の強い利用者の家族からの意見で部屋の窓の開閉を出入りできない程度に改修した例がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・退職等にあたっては、利用者によく説明するとともに、異動、退職者と新任者がマンツーマンで約一ヶ月間利用者の支援にあたり馴染みが保たれるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は積極的に参加するように勧め、また実際参加することが出来る。研修後は、その成果を職員全員で共有するため、伝達研修若しくは資料を回覧に供している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、その中でブロック研修、意見交流する機会をもっている。また、同法人のグループホーム フクちゃんハウスとの交流もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケース記録によって、現在の利用者の例として入居前に来所し見学した後に入居を決めたことが確認でき、本人と家族に納得いただけるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援するという意識ではなく、お互いに共に同じ屋根の下で生活しているんだという意識「共に支えあっている」とする理念を活かすように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、私(利用者)の基本情報、暮らしの情報、心身の情報等に本人と家族の意向、希望を把握し記入している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	把握した本人や家族の意向、希望を基に、親戚、友人などからも、さりげなく情報を得ながら全職員の意見を取り入れて計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的な見直しは6ヵ月ごと、評価は3ヶ月ごとに行なっている。利用者の状況変化に応じてカンファレンスを開いて協議し対応していることが会議録で確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望により、法人内の機能を活用するなどの相談に応じている。例えば、重度化した場合にはグループホームフクちゃんハウスへ移るとか(※重度化対応可能グループホーム)、状況によっては老人ホームへ移るなど考えられる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は本人、家族の意向に沿って支援している。通院介助はケース記録によって状況を知ることが出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	比較的、重度の利用者は法人内のグループホーム フクちゃんハウスに居り、やすらぎの家としては、重度化への対応について、でき得る限りの支援については職員全員が共有している。当事業所での終末期については現在は考えていない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	名前の呼び方など前もって情報を得ておくとか、本人の誇りを損ねるような言葉遣いには特に注意していることがケース記録にあった。また、情報の取扱いは外部評価の指摘を受けとめ、工夫の後が見受けられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れの基本はあるが、その時間帯の中で、入居者一人ひとりの自由意思で生活している。入浴などはその良い例である。(入浴時の時間帯設定の15時以降希望によって自由に入浴できること)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で出てくる食事に関する話題に留意しながら、利用者の好みを活かすようにしている。食事の準備、片付けは分担して行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は15時以降は自由になっている。入浴の可否については、本人の体調をバイタルチェックによって本人の平熱を把握し、それを基準としている。	○	入浴の可否基準を全体的な体調と本人の平熱を基準にしているが、もっとはっきりした数値で体温を示すほうが判断しやすいと思われるので、そのような取り組みを期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	梅酒作り、塩辛作り、洗濯、読書など、一人ひとりが持っている得意なものを出している。当日は、干柿作りの柿の皮むきを一生懸命やっている男性入居者もいた。今年、事業所内の空きスペースを使って作った、カラオケルームも人気の的である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材購入のため毎日利用者が交代で出かける。また、希望によるドライブも行っている。全員及び個人的希望による外食も支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に出入りできることを基本としており、夜間以外は鍵をかけない。最近、外出指向の強い利用者があり、職員が手薄になる早朝と昼休み時には、当該利用者の家族から同意書を得て鍵をかけている。	○	外出指向の強い利用者の家族からは同意書を得ていることは確認できたが、他の利用者や家族に対する説明もきちんと行ない理解いただくこと、早期に鍵をかけないという基本に戻ることに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害避難訓練計画によって、年1回地域住民の協力による訓練を実施している。また、地域防災組織を立ち上げ中で、それに加入する準備を進めている。非常災害時に備え食料の確保もホーム内で行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の指導をもとに、食事の献立作りや水分摂取について考慮しながら支援している。栄養士からは献立の一人当たりのカロリー計算とコメントを含めた指摘を得るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者みんなで考え、家具の配置や飾りつけなどを行っている。小上がりの空間も設けられている。ガラス戸が多く全体が明るい。時計、暦も見やすい場所にある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使いやすいように、それぞれ工夫して使い慣れたものを配置している。テレビ、家族写真、使い慣れた椅子、テーブルなど持ち込んでいる。		